

# 領域 5 インフォーマルミーティング議事録

日時：2026.03.23, 18:00-19:00

場所：オンライン

出席者：領域代表・副代表・運営委員を含む 23 名程度

配布資料：スライドを画面共有および、オンラインで閲覧可能にした。

1. 審議・確認事項	2
1-1. (審議) 運営委員の紹介	2
1-2. 領域活性化について(講演者推移・キーワード)	2

# 1. 審議・確認事項

## 1-1. 運営委員の紹介

- 今期代表・副代表・運営委員の紹介が行われた。
- 次期代表・副代表・運営委員の紹介が行われた。
- 次々期（2026. 10～）の運営委員について下記の3名の紹介があり、物理学会に推薦することが承認された。
  - 小林 真隆（東京大）
  - 室谷 悠太（東京大）
  - 山本 航平（QST）

## 1-2. 領域活性化について(講演者推移・キーワード)

- 発表件数について
  - 今回は 2005 年度以降で最低水準の講演者数となった。
  - オンライン開催時はオンサイト開催時より参加者数が少ない傾向がより顕著になっており、増減の振れ幅も年々大きくなっている。この傾向は他領域でも同様に見られる。
  - ポスター発表は望ましい比率(30~35%)を大きく下回った。(15%)
  - 学生優秀発表賞に口頭発表で応募しているケースが相当数あった。
- 領域5のキーワードについて
  - 第3キーワードである「超イオン導電体・イオン伝導体」を第1キーワードとして登録しているケースが複数あり、「超イオン導電体・イオン伝導体」を第1キーワードに加えるべきか議論が行われた。
    - 第1キーワードは手法・方法論ベースで構成されていること、実際のプログラム編成では第3キーワード等も見ながら柔軟に編成が行われていることから、追加は見送る方向となった。

- 後日行われる超イオン導電体インフォーマルミーティングにて、第3キーワードを入力してほしい旨を周知する提案がなされた。
- テラヘルツを第1キーワードに追加する案も話題に上がったが、今回は採用しない方向となった。
  - 過去のキーワード整理では項目を細分化するよりも単純化し、異分野を混ぜる思想が重視された。今回はそれに則る形を取ることとした。
- 一方で、「定常測定」や「時間分解測定」といった一部の第1キーワードがセッション区分として機能しておらず、第1キーワードの役割自体に再検討の余地があるとの指摘もあった。
  - 第1キーワードは今回は大きく変更せず、今後運営委員で見直しを検討することになった。
- 第2キーワードについては、前回定めた基準に則り、3大会連続で選択0件の「生物・生命現象」および「分子拡散」を削除する方針が示された。
- 「その他」を選択した講演が一定数存在するため、内容確認のうえ、共通性があれば新規キーワード提案を検討することになった。
- 学生優秀発表賞について
  - オンライン大会の発表件数減少の影響で、今回の学生優秀発表賞の受賞者は1名のみとなった。
  - 今後の見直し案として、オンライン大会では口頭発表も学生優秀賞の対象に含める可能性が議論された。
  - 受賞対象をポスター発表としている経緯として、領域5には多領域に専門がまたがる先生が多いため、口頭発表の審査員を確保するのが難しいという理由が挙げられた。オンラインであれば審査参加の柔軟性が高く、口頭発表の審査も可能なのではとの意見があった。

- すぐに制度変更は行わず、まずは今後1年程度様子を見る方針となった。
- オンライン開催の継続に関する議論
  - オンライン大会の講演数減少を受け、そもそも現行の開催形態を維持する意義について意見交換があった。
  - 領域5としての対応については、直ちに大きな方針転換を求めるというより、まずオンライン開催の中でどう改善するかを考えるべきとの意見が挙げられた。ただし、危惧や意見を学会側へ伝えること自体は検討余地があるとされた。